

HD 革命 / Winprotector Ver.8

操作マニュアル

(株)アーク情報システム

目 次

第1章 HD革命/WinProtectorの使用開始にあたって

- ・ご利用いただけるシステム環境（システム要件）…………… 1-2
- ・HD革命/WinProtectorのインストール…………… 1-3
- ・HD革命/WinProtector使用時の注意事項・制限事項…………… 1-4

第2章 HD革命/WinProtectorを使用する

- ・HD革命/WinProtectorの基本機能…………… 2-2
- ・ドライブの保護…………… 2-3
- ・ドライブの保護の解除…………… 2-4
- ・モニターウィンドウと一時ファイル容量…………… 2-5
- ・解除セクターと終了ダイアログ…………… 2-6
- ・オプションの設定…………… 2-7
 - 保護するドライブの設定…………… 2-7
 - 一時ファイルの保存先…………… 2-8
 - 一時ファイル（ハードディスク）…………… 2-9
 - 一時ファイル（メモリー）…………… 2-10
 - 除外する項目の設定…………… 2-11
 - アップデート連携…………… 2-13
 - リミット時の設定…………… 2-16
 - ウィンドウの設定…………… 2-17
 - その他の設定…………… 2-18
 - ユーザー設定…………… 2-20
 - 設定のインポート/エクスポート…………… 2-22
 - 例外処理…………… 2-23
 - 更新の確認…………… 2-24
 - コラム：Windows Update実行時の動作について…………… 2-25
 - コラム：アンチウイルスソフトウェアの更新動作について…………… 2-26
 - コラム：アップデート連携について…………… 2-27

第3章 便利ツール

- ・ComfortDisk…………… 3-2
- ・ドライブ情報の取得…………… 3-3
- ・コンピューター情報の取得…………… 3-4
- ・ネットワークマネージャー…………… 3-6
 - コラム：アップデート連携時の画面表示…………… 3-7

第 1 章

HD 革命 / WinProtector の 使用開始にあたって

ここでは、HD 革命 / WinProtector をお使いいただける動作環境、インストール方法、注意事項や制限事項などについて説明しています。

ご利用いただけるシステム環境（システム要件）

HD 革命 /WinProtector Ver.8（以下「HD 革命 /WinProtector」）をご利用いただくためには、次のコンピューターハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

コンピューターシステム環境

オペレーティングシステム (いずれも日本語版)	Windows 10 October 2018 Update (バージョン 1809) 32bit/64bit 版 Windows 8.1 Update 32bit/64bit 版 Windows 7 SP1 32bit/64bit 版 ※ Windows RT/RT 8.1 には対応していません。 ※ アドミニストレーター権限（管理者権限）が必要です。 ※ 2018年11月1日現在の対応 OS となります。Windows 10 の大型アップデートについての最新情報は、弊社 Web サイトでご確認ください。 ※ マイクロソフトがサポートを終了したオペレーティングシステムは、弊社製品のサポートも終了とさせていただきます。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター（PC/AT 互換機のみ） ※ Macintosh (Mac) には対応していません。
メモリ	Windows 10/8.1/7 64bit 版：4GB 以上（8GB 以上を推奨） Windows 10/8.1/7 32bit 版：2GB 以上 ※ メモリ上に「一時ファイル」を設定する場合、保護を行うためのメモリとは別に、インデックス用としてドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリ容量が必要です。
CD/DVD ドライブ	CD-ROM が読み込めるドライブ
ハードディスク SSD	50MB の空き容量（本製品のインストール用として）
対応ファイルシステム	FAT32、NTFS（FAT16、exFAT には対応していません） ※ ダイナミックディスクの環境では使用できません。 ※ 仮想ディスク（.VHD）をマウントしたドライブには対応していません。
モニター	画面解像度が 1024 × 768 のモニター
その他	インターネット接続環境 ※ アップデータのダウンロードなどで必要となります。

- ※ HD 革命 /WinProtector は、Symantec 社の「Norton GoBack」（「System Works」に含まれる「Norton GoBack」を含む）と共存できません。
- ※ 32bit の OS において、OS 管理外のメモリを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ※ コンピューターによっては OS 管理外のメモリを使用するに当たり、BIOS の設定（メモリマップ機能）を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、コンピューター付属のマニュアルなどをご確認ください。
- ※ 他の OS 管理外のメモリを使用しているソフトウェアと同時に、OS 管理外のメモリを使用することはできません。
- ※ お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector を使用している間は、Windows の休止状態 / サスペンド、スタンバイ / スリープなどの省電力機能が正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリを使用する場合は、省電力機能は使用できません。

HD 革命 /WinProtector の製品エディション

HD 革命 /WinProtector の製品エディションには、個人ユーザー向けの「Standard」、サーバー・クライアント環境で使用する法人向けの「Network Controller」があります。そのほかに、「Simple Edition」が存在します。

- **Standard**：Windows の保護を行うための基本ソフトウェア「HD 革命 /WinProtector」が搭載されているエディションとなります。
- **Network Controller**：「Standard」の機能に加え、高度なリモート制御や監視を行う機能が搭載された製品となります。
- **Simple Edition**：「HD 革命 /WinProtector」において、コンピューターを ROM 化するために必要な機能のみ搭載したエディションとなります。

HD 革命 /WinProtector のインストール

旧バージョンの HD 革命 /WinProtector、または SSD 革命 /SpeedAdvance をインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

1

インストール開始

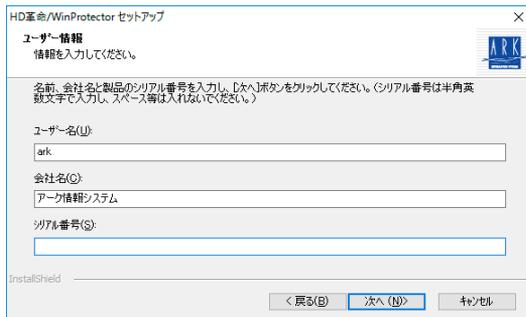
「インストール開始」をクリックします。



2

シリアル番号の入力

シリアル番号を入力します。



シリアル番号は、半角英字の大文字と半角数字で入力してください。ハイフン (-) も必要です。

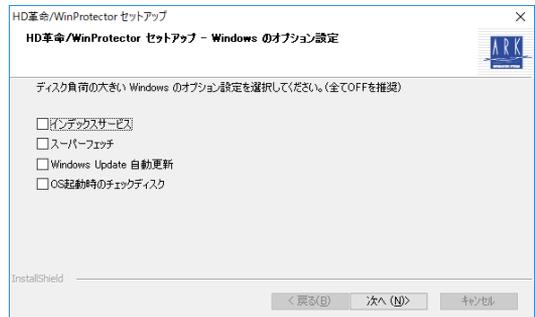
(例) ABCD - E12 - FGH345JK67

受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

3

オプション設定の選択

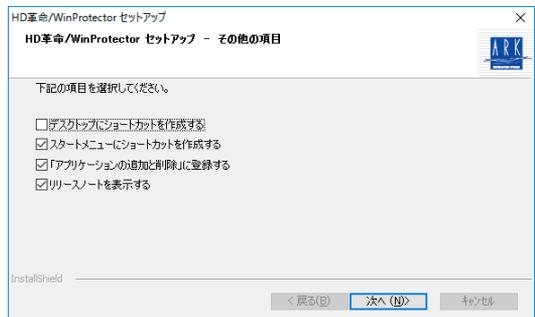
Windows のオプション設定を変更することができます。この画面で動作を選択する機能は、HD 革命 /WinProtector を使用する上で影響が大きく、できる限りオフにして使用することを推奨します (機能については 3-2 ページ参照)。



4

項目の選択

インストールに関する設定を行います。「デスクトップにショートカットを作成する」を選択すると、インストール後、デスクトップに「Ark ランチャー」のアイコンが作成されます。



5

再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。

HD 革命 /WinProtector 使用時の注意事項・制限事項

安全にご利用いただくために

- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・Symantec 社の「Norton GoBack」(「SystemWorks」に含まれる「Norton GoBack」も含む) がインストールされている環境には、HD 革命 /WinProtector をインストールしないでください。HD 革命 /WinProtector をインストールする前に「Norton GoBack」をアンインストールしてください。

ハードディスク、ファイルシステムなどに関連して

●ファイルシステムについて

対応ファイルシステムは NTFS と FAT32 です。ただし、仮想ディスク (.VHD) をマウントしたドライブには対応していません。

●ダイナミックディスクについて

ダイナミックディスクの環境で保護を行うことはできません。

●ディスク デフラグについて

HD 革命 /WinProtector によってドライブの保護を行っている間は、「ディスク デフラグ」またはそれと同様の機能をもつディスク最適化ソフトウェアによる最適化は行わないでください。

●ハードディスクの断片化について

ドライブの断片化が激しいときは、保護を行うことができません。このようなときは、あらかじめ「ディスク デフラグ」などによって断片化を解消してください。

- OS の起動に関わるファイルが、保護されているドライブ以外にある場合の注意事項
マルチブートなどの環境で、OS の起動に関わるフ

ァイルが、保護されているドライブ以外にある場合は、そのファイルは保護されていないためにファイルの破損・変更があると OS の起動ができなくなります。

●保護中のドライブ操作について

HD 革命 /WinProtector でシステムを保護している間は、「ディスクの管理」や「HD 革命 /Partition EX」、そのほかのツールでドライブの作成や削除などの操作を行わないでください。

●Windows 10/8.1/8 の「記憶域」機能で作成したディスクについて

Windows 10/8.1/8 の「記憶域」で作成したディスクに対して保護を行うことは動作保証外となります。

●暗号化ソフトウェアとの併用について

HD 革命 /WinProtector は、BitLocker 暗号化機能に対応していますが、BitLocker 以外の暗号化ソフトウェアには対応していません。「設定ファイルが読み込めませんでした。」とメッセージが表示される場合は、BitLocker 以外の暗号化ソフトウェアによる暗号化が行われている可能性がありますので、暗号化を解除してから保護を開始してください。

BitLocker により暗号化されたディスクに対して保護を行う場合、「除外する項目の設定」タブ (2-11 ページ) で除外する項目名を選択することはできません。また、「リアルモードから保護を開始する」、「シャットダウン /再起動時に一時ファイルの内容を継続する」(共に 2-19 ページ) のオプションは使用できません。

システムの操作に関連して

●保護中の省電力機能について

お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector でシステムを保護している間は、Windows の休止状態 /サスペンド、スタンバイ /スリープが正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリを

使用する場合は、省電力機能は使用できません。

●保護中にコンピューターをリセットした場合の動作について

ドライブを保護中にコンピューターをリセットした場合や、一時ファイルが限界値に達して再起動した場合、保護中に変更されたデータは破棄されてしまいます。重要なデータは定期的にバックアップを行うか、別のドライブやメディアに保存してください。

また、「OS 起動時から保護を開始する」にチェックを入れていないときは保護が解除された状態で Windows が再起動します。保護された状態で Windows を再起動したいときは「OS 起動時から保護を開始する」にチェックを入れてください (OS の起動時/終了時の設定は 2-19 ページ参照)。

●「一時ファイル」と「インデックス」

HD 革命 /WinProtector は、ドライブへの書き込みを保存するための「一時ファイル」をメモリにも作成できます。また、それとは別に、どのセクターが使用されたかを記録するための「インデックス」も同様にメモリ上にも作成できます。「インデックス」は、ドライブのサイズに応じて必要なサイズが異なり、ドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリ容量が必要です。

そのため、メモリを使用する設定にして保護を行うには、「一時ファイル」+「インデックス」のメモリ容量が必要となります。ドライブのサイズが大きくなるほど、「インデックス」の作成に必要なメモリも大きくなるため、メモリサイズとドライブのサイズによっては保護を行うことができません。

「メモリが足りません」と表示される場合は、ドライブのサイズを小さくするか、ハードディスクに設定するようにしてください。

●OS 管理外メモリについて

32 ビット版の Windows では、OS の制限により 3GB (値は環境により前後します) のメモリしか認識できません。3GB 以上のメモリは OS 管理外のメモリとなります。HD 革命 /WinProtector では、この OS 管理外メモリも使用することができますが、以下の注意事項があります。

- ・OS 管理外のメモリを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ・コンピューターによっては OS 管理外のメモリを使用するに当たり、BIOS の設定(メモリマップ機能)を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、マニュアルなどでご確認ください。
- ・他の OS 管理外のメモリを使用しているソフトウェア (Memory 革命 /RAM Drive など) と同時に、OS 管理外のメモリを使用することはできません。
- ・OS 管理外のメモリを使用する場合は、休止状態 / サスペンドなどの省電力機能は使用できません。

●Windows 起動時のメモリ不足について

Windows の起動時に保護を開始する設定にし、かつ保護中の変更内容をドライブに適用する場合、変更した内容 (アプリケーションのインストールやアップデートなど) の影響で Windows が必要とするメモリ容量が増えると、Windows がメモリ不足となり動作できなくなります。このとき、解除セレクターを表示しないようにしていると、Windows 起動時に保護を解除できないため、Windows が起動できなくなる可能性があります。

変更をシステムに適用する設定にしている場合は、設定する一時ファイルのサイズには余裕を持たせ、「その他の設定」(2-19 ページ) で「解除セレクターを表示する」のチェックをはずさないようにしてください。

チェックディスクの操作について

HD 革命 /WinProtector で「OS 起動時から保護を開始する」または「リアルモードから保護を開始する」のオプションが選択されている場合、Windows 起動時にチェックディスクが行われるとチェックディスクによる再起動が繰り返され、Windows の起動に支障が出ることがあります。これは、HD 革命 /WinProtector がドライブを保護しているため、チェックディスクが終了したことを示すフラグが破棄されてしまうことによります。チェックディスクが頻繁に発生するような環境で使用

する場合は、チェックディスクをオフにして使用してください。設定の変更は「ComfortDisk」(3-2 ページ) より行うことができます。

「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」オプションを使用する場合の注意事項

● オプションを使用するための条件

2-8 ページの「一時ファイルの保存先」タブで、「一時ファイルの場所」に「メモリ」を選択し、かつ「保護するドライブの設定」タブで、保護するドライブが1つだけ選択されている場合のみ、このオプションを使用することができます。

● 再起動時の注意

他のアプリケーションから直接 Windows のシャットダウン／再起動が行われると、「終了ダイアログ」は表示されません。このオプションを選択している場合、変更が適用されずにシャットダウン／再起動が行われるため、書き込まれたタイミングによっては、内容に不整合が起こり OS やアプリケーションの動作に支障が出る場合があります。このオプションを選択している場合は、他のアプリケーションでシャットダウン／再起動を行わず、Windows によるシャットダウン／再起動を行ってください。

「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションを使用する場合の注意事項

HD 革命 /WinProtector では、ドライブの保護中に使用領域（保護を開始した時点でファイル・フォルダーが存在する領域）の変更が行われると、その変更は「一時ファイル」に書き込まれます。新規に作成するファイル・フォルダーは、そのままドライブの「空き領域」に書き込み、どの領域が使用されているかの情報のみ「一時ファイル」に書き込まれるようになっています。

「その他の設定」タブ (2-18 ページ) で「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションを選択すると、この「空き領域」への書き込みもすべて「一時ファイル」に書き込まれ

ることになりますのでセキュリティは向上しますが、「一時ファイル」の使用量がオプションを使用しない場合と比べて大きくなります。

「リアルモードから保護を開始する」オプションを使用する場合の注意事項

システムドライブが GPT ディスク環境では、「詳細設定」の「その他の設定」において「リアルモードから保護を開始する」オプションは選択できません。また、Intel 6 シリーズ以降のチップセット (Z68、Z77、Z87 など) を搭載したコンピュータで、RAID 機能 (Intel Smart Response Technology) が有効の場合は、「リアルモードから保護を開始する」オプションを選択しても、メモリ不足により保護を開始することができません。「OS 起動時から保護を開始する」設定であれば、前述の環境においても起動時からの保護を行うことは可能です。

なお、「リアルモードから保護を開始する」オプションが使用できない場合、この機能と連動している「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」オプションで継続保護を行うことができなくなります。

SSD (Solid State Drive) を保護する場合の注意事項

Windows 7 以降の OS には、SSD の最適化を行う Trim 機能がありますが、この機能が有効の環境でドライブの保護を行うと、保護が正常に行われないことがあります。SSD 上のドライブを保護する場合は、Trim 機能をオフにしてご利用ください。Trim 機能は、「ComfortDisk」(3-2 ページ) で設定を変更することができます。

除外する項目を設定するときの注意事項

除外する項目を設定する時は、「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」のオプションがオンになります。

そのため、データを保存すると保護ドライブへの書き込みが行われたことになり、その分一時ファ

ルの使用容量が増加します。

「アップデート連携」で WSUS サーバーを使用する場合の注意事項

「アップデート連携」タブで、「Windows Update の更新処理を行う」オプションを設定し、詳細画面 (2-15 ページ) で WSUS サーバーの設定を行うと、Windows のグループポリシーにおける WSUS サーバーの設定が変更されます。

そのため、HD 革命 /WinProtector を介さない Windows Update を行う場合も、設定した WSUS サーバーに接続しにいくようになります。また、WSUS サーバーの設定をしたまま HD 革命 /WinProtector をアンインストールしてもグループポリシーの WSUS サーバーの設定は残ったままとなります。

「アップデート連携」でプロキシサーバーを使用する場合の注意事項

「アップデート連携」タブで、「Windows Update の更新処理を行う」オプションを設定し、詳細画面 (2-15 ページ) でプロキシサーバーの設定を行う場合、Windows 10 の環境では認証つきプロキシは指定できません。

ネットワークマネージャー使用時の注意事項

- ・「HD 革命 /WinProtector」と「ネットワークマネージャー」は同時にインストールできません。
- ・「ネットワークマネージャー」機能を使用する場合は、ファイアウォールの例外処理を行っています。この例外処理は「HD 革命 /WinProtector」および「ネットワークマネージャー」のインストール時に行われます。そのため、後からセキュリティソフトウェアがインストールされた場合、例外処理が行われていないためにリモートでの保護の開始、解除ができません。「HD 革命 /WinProtector」または「ネットワークマネージャー」を一度アンインストールし、再度インストールしてください。

アンインストールについて

インストール時のオプションで「アプリケーションの追加と削除」をオン (1-3 ページ) にしている場合は、「コントロールパネル」→「プログラム」→「プログラムと機能」(または、「スタート」ボタン→「設定」→「アプリ」) の一覧から「HD 革命 /WinProtector」を選択してアンインストールを行うことができます。

「アプリケーションの追加と削除」をオフにしてインストールした場合は、もう一度インストールと同じ手順を実行することで、アンインストールを行うことができます。

革命シリーズとの共存について

SSD 革命 /SpeedAdvance と同時使用はできません。

HD 革命 /WinProtector で保護中は、他の革命シリーズでのバックアップやコピーを行うことができません。また、すべての機能が使用できない場合があります。

第2章

HD 革命 / WinProtector を使用する

ここでは、HD 革命 / WinProtector を使用して、ドライブの保護、保護の解除、オプションの設定などを行う方法について説明しています。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector の基本機能について説明します。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector は、Windows 使用時にドライブへの書き込みが行われないように制限することにより、ドライブの保護を行うソフトウェアです。

通常ならドライブへ書き込まれるデータは、別ドライブやコンピューターの物理メモリ上に作成した領域(HD 革命 /WinProtector では「一時ファイル」といいます)に書き込まれます。これによりドライブが保護されます。

ドライブの保護を開始すると、ドライブへの書き込みはHD 革命 /WinProtector のドライバがそれをすべて「横取り」して一時ファイルに書き込みます。見た目には何も変化はありませんが、実際にはHD 革命 /WinProtector が管理する一時ファイルとの間で書き込み、読み込みが行われているため、ドライブの内容は一切変更されません。

コンピューターを再起動することで一時ファイルに書き込まれた内容は破棄されますので、変更された設定やデータなどを簡単に元の状態に戻すことができます。一時ファイルをすべてメモリに割り当て

れば、書き込まれたデータは完全に消去されますので、よりセキュアな環境を構築できます。

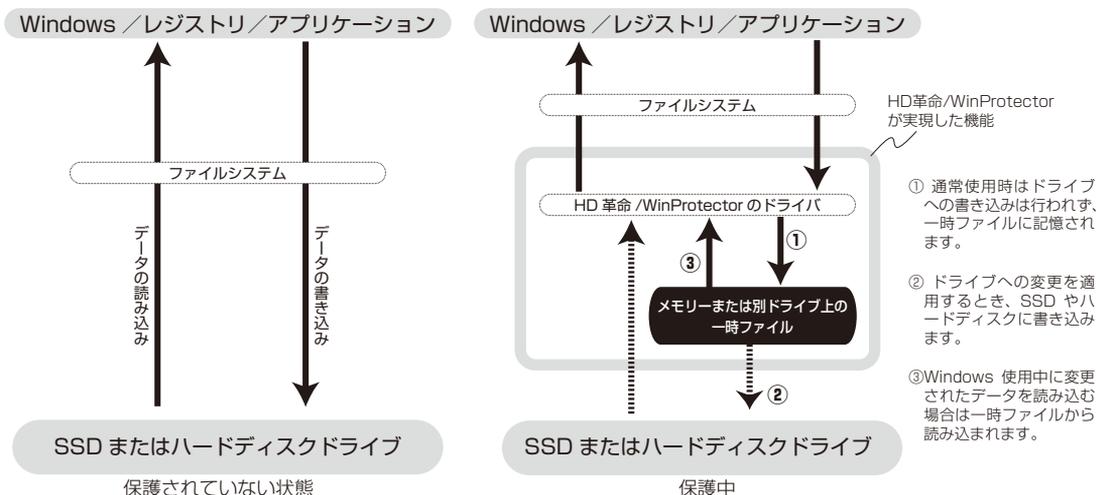
なお、一時ファイルに書き込まれた内容は、オプション設定で変更を実際のドライブに適用する(反映する)こともできますので、利用環境や用途に応じて使い分けることができます。

保護中の動作

下の図は、HD 革命 /WinProtector による保護中の動作を表したものです。

保護中は、Windows やアプリケーションからSSD、ハードディスクへの書き込みが行われても、HD 革命 /WinProtector がフィルターの役目を果たし、書き込みを制限します。このときにデータを書き込む場所が一時ファイルとなります。

元からSSDまたはハードディスク上にあるデータはそのまま読み込まれますが、変更されたデータは一時ファイルから読み込まれることとなります。一時ファイルの設定する場所はメモリとハードディスクが選択でき、その両方を使用することもできます。



HD 革命 /WinProtector による保護の動作図

ドライブの保護

ドライブの保護を行う手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



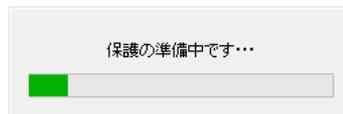
2 「開始」を選択

「開始」をクリックします。



3 保護の準備

保護を開始する前に準備中のメッセージが表示されます。環境によっては開始までに時間がかかります。



4 ドライブの保護

保護中は、メインウィンドウの状態が「保護されています。」と表示されます。



ARK ランチャーについて

Ark ランチャーは、HD 革命/WinProtector のメイン画面の起動や、各種ツールを起動することができます。Ark ランチャーは「C:\Program Files\Common Files\ARK Information Systems Share」にインストールされます。

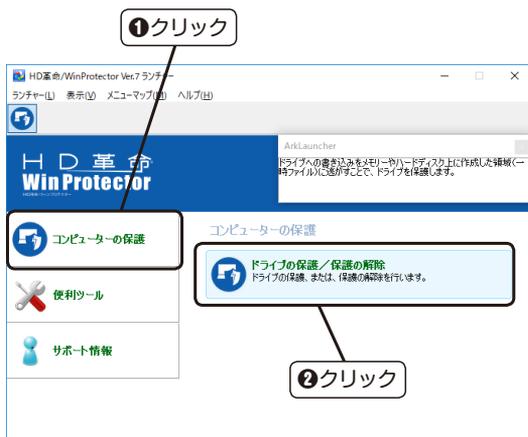


ドライブの保護の解除

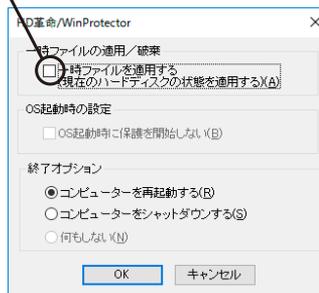
ドライブの保護を解除する手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



変更内容を適用する場合はチェックを入れます。適用する場合、解除処理に時間がかかることがあります。処理中はコンピューターの電源を切ることや、リセットを行うことはしないでください。



Point

終了ダイアログは、保護中に Windows のシャットダウン・再起動を行う場合にも表示されます。「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

2 「解除」を選択

「解除」をクリックします。



4 保護の解除

保護を解除中は次のメッセージが表示されます。環境によっては解除までに時間がかかります。



保護が解除されると、メインウィンドウの状態では「保護されていません。」と表示されます。



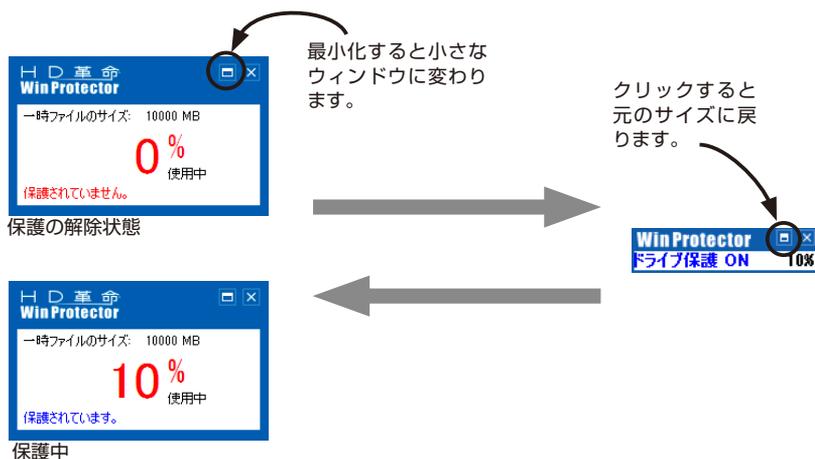
3 終了ダイアログで設定

終了ダイアログ（詳細は 2-6 ページ）で、保護中にドライブに書き込まれた内容を適用するかどうか、また、その後の動作を選択します。

モニターウィンドウと一時ファイル容量

HD 革命 /WinProtector が起動するとモニターウィンドウが表示され（「ウィンドウの設定」(2-17 ページ)で非表示に設定することも可能）ます。

モニターウィンドウには、保護中かどうかと、保護中のときは一時ファイルの全体容量と使用済み容量（%）が表示されます。



HD 革命 /WinProtector による保護状態にて Windows を使用し続けると、一時ファイルの使用済み容量（%）が増加します。

一時ファイルの使用済み容量が規定値に達すると、コンピューターはシャットダウン／再起動します（「リミット時の動作」設定は 2-16 ページ参照）。

一時ファイルの使用済み容量が 100% になると、強制的にコンピューターが再起動します。

Point

一時ファイルの使用済み容量の増加について

一時ファイルの使用済み容量は、ドライブに書き込みが行われることで増加します。そのため、システムユーティリティやアンチウイルスソフトなどによりドライブに定期的な書き込みが行われると、一時ファイルの使用容量は通常の場合よりも早く増加することになります。また、Windows の復元ポイントの自動作成や、自動更新による書き込みでも一時ファイルの使用量は増加します。停止させても問題がないソフトウェアや機能を停止することで、一時ファイルの使用済み容量の増加を抑えることができます。

解除セレクトターと終了ダイアログ

HD 革命 / WinProtector では、Windows の起動と終了時に保護の解除・設定をするセレクトターとダイアログが表示されます。セレクトターとダイアログは「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

解除セレクトター

● OS 起動時から保護を開始する場合

Windows の起動時に、保護を解除するセレクトターが表示されます。カウントされている間に「ESC」キーを押すと保護を解除することができます。

```
Press [ESC] key to cancel protection
Press another key to start protection ... 3
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで入力を3回間違えると入力が中止され、保護された状態で Windows が起動します。

```
Enter password, press [Enter] to confirm :
```

● 継続保護を行う（リアルモードから保護を開始する）場合

オプションの「その他の設定」で「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」を選択している場合は、OS 起動時からの保護とは異なるメッセージのセレクトターが表示されます。

カウントされている間に「ESC」キーを押すと本当に保護を解除するかの確認がもう一度あり、「Y」キーを押すと保護を解除することができます。

```
Press any key to start protection (Press "ESC" for cancel) 6_
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで正しいパスワードを入力しない場合は保護を解除して Windows を起動することができません。

```
Enter Password, press "Enter" to confirm : _
Press "ESC" to start protection.
```

※ 「ESC」キーを押すと保護を解除せずに Windows が起動します。

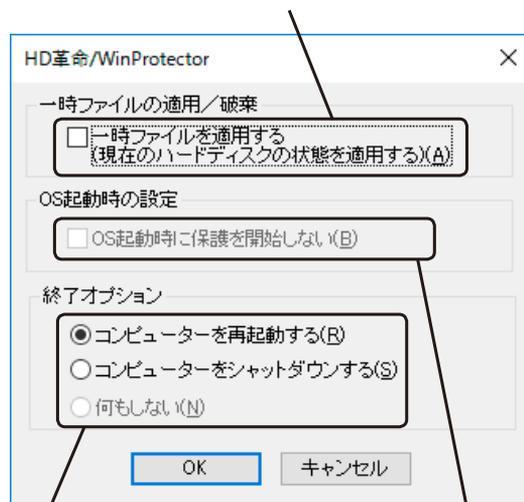
Point

オプションの「その他の設定」で「コンピューター起動時／終了時の設定」を「リアルモードから保護を開始する」にしている場合は、こちらのメッセージが表示されます。

終了ダイアログ

「終了ダイアログ」は保護の解除時に表示され、変更の適用と次回起動時の動作を選択することができます。コンピューターのシャットダウン／再起動時も保護を解除しますので、同様に「終了ダイアログ」が表示されます（ログオフでは表示されません）。

保護を開始してから変更された内容をドライブに書き込みます。「リミット時の設定」(2-16 ページ) で「現在の状態をドライブに適用後、保護を継続する」が選択されている場合はチェックが入った状態になり、必ず変更が適用されます。



終了時の動作を選択します。「何もしない」は変更内容をドライブに適用する場合のみ選択できます。

「その他の設定」(2-19 ページ) の「コンピューター起動時／終了時の設定」の設定を「起動時の保護なし」に変更します。起動時からの保護が設定されていない場合は選択できません。再度起動時から保護を開始する場合は、設定をしておいてください。

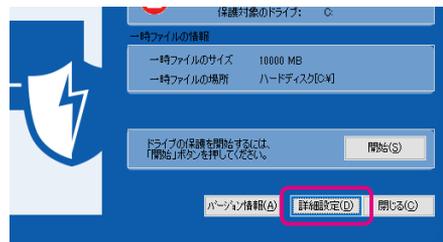
Point

「OS 起動時の設定」チェックボックスは、OS 起動時とリアルモードから保護を開始する場合は「OS 起動時に保護を開始しない」、ログオン時から保護を開始する場合は「ログオン時に保護を開始しない」と表記されます。

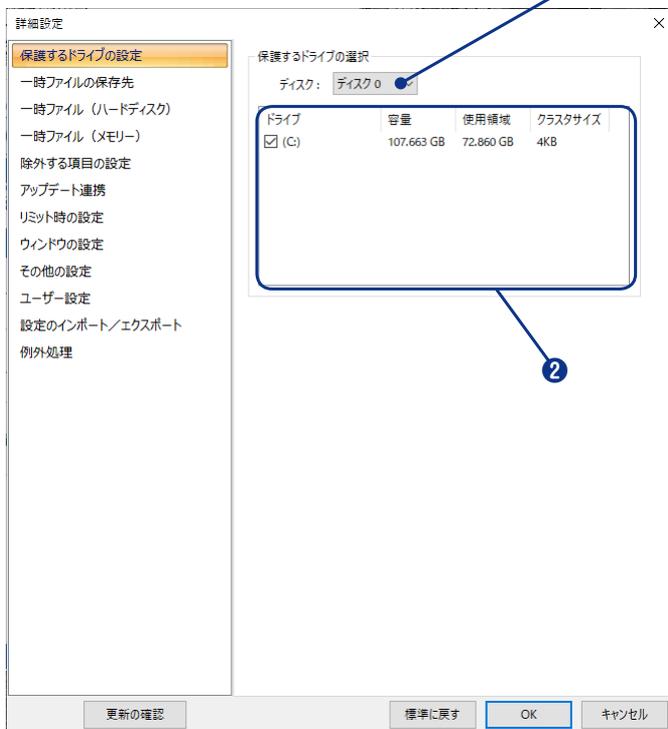
オプションの設定

「詳細設定」では、「一時ファイル」のサイズや除外設定、通知に関する設定など変更することができます。オプション設定の変更は、保護を解除した状態で行う必要があります。パスワードを設定している場合は、詳細設定画面を表示するためにパスワードの入力が必要です。

なお、「Simple Edition」は、機能が限定されるため、一部表示されない画面があります。



保護するドライブの設定



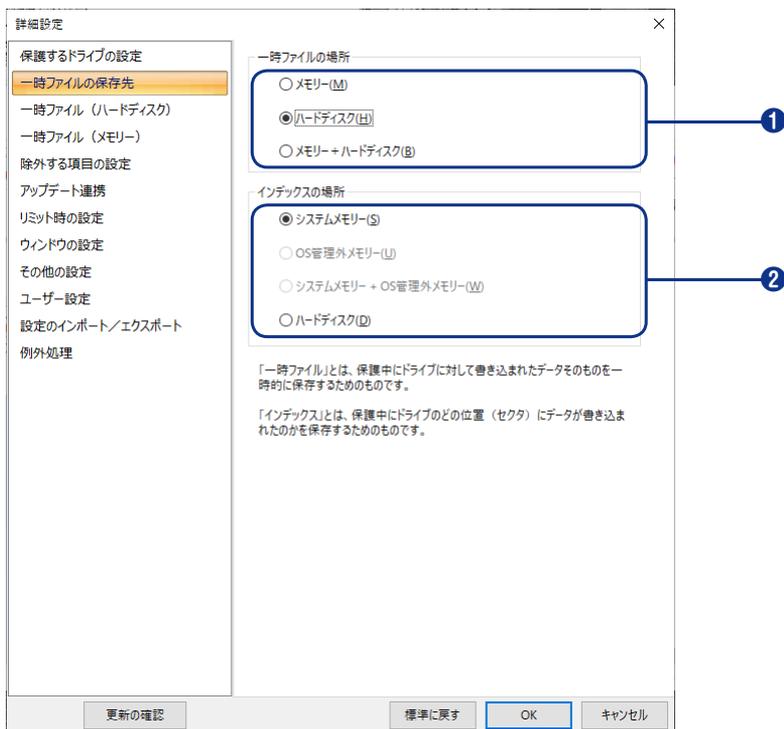
①保護するディスクの設定

保護をするディスクの番号を選択します。

②保護するドライブの設定

①で選択したディスクの中にあるドライブが表示されますので、保護するドライブにチェックを入れます。

一時ファイルの保存先



①一時ファイルの場所を選択

「一時ファイル」とは、保護中にドライブに対して書き込まれたデータそのものを一時的に保存するためのものです。ここでは、「一時ファイル」を作成する場所を選択します。「メモリー+ハードディスク」が選択された場合は、一時ファイルはメモリから先に消費されます。

②インデックスの場所を選択

「インデックス」とは、保護中にドライブのどの位置 (セクター) にデータが書き込まれたのかを保存するためのものです。ここでは、「インデックス」を作成する場所を選択します。64bit 版の Windows では「OS 管理外メモリー」は選択できません。「インデックス」については、1-5 ページの注意事項を参照)。

Point

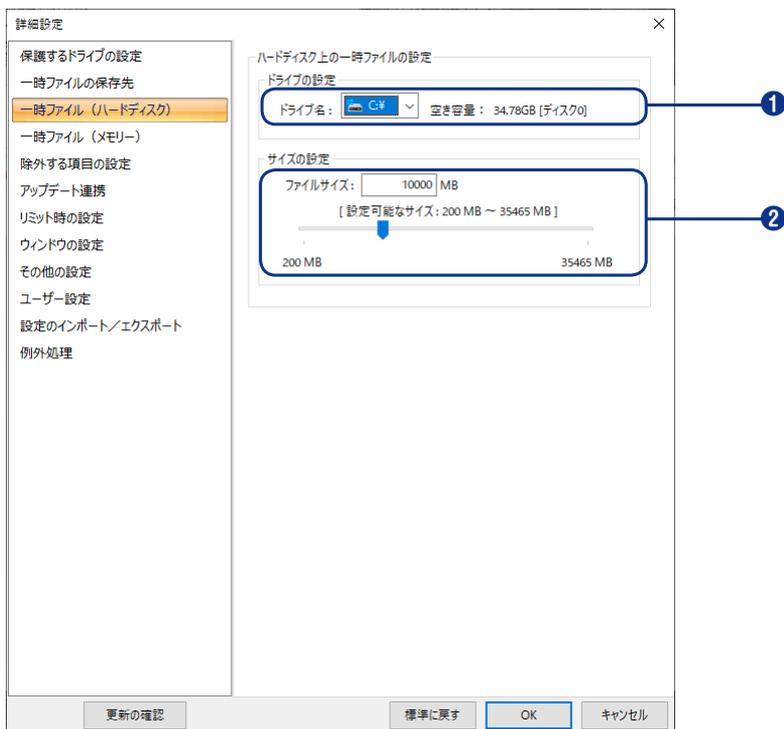
「一時ファイル」はクラスタサイズに比例して消費量が大きくなります。つまり、同じファイルをクラスタサイズが異なるドライブに書き込んだ場合、4KB よりも 8KB のほうが一時ファイルの消費量は 2 倍となります。また、複数のドライブが選択されている場合、一番大きいクラスタサイズが使用されるため、保護するドライブに FAT32 と NTFS が混在するような環境では、NTFS だけの場合に比べて一時ファイルの消費量は大きくなります。

Point

「インデックス」には、保護するドライブサイズに対して約 1,000 分の 1 のメモリ容量が必要です。保護するドライブのサイズが大きくなるほど、必要な容量が大きくなります。

「一時ファイル」と「インデックス」の両方をメモリのみに設定すると、より多くのメモリ容量が必要となるため、環境によっては保護を行うことができなくなります。メモリが不足する場合は、ハードディスクに設定してください。

一時ファイル (ハードディスク)



① ドライブの設定

「一時ファイル」の保存先ドライブを指定します。

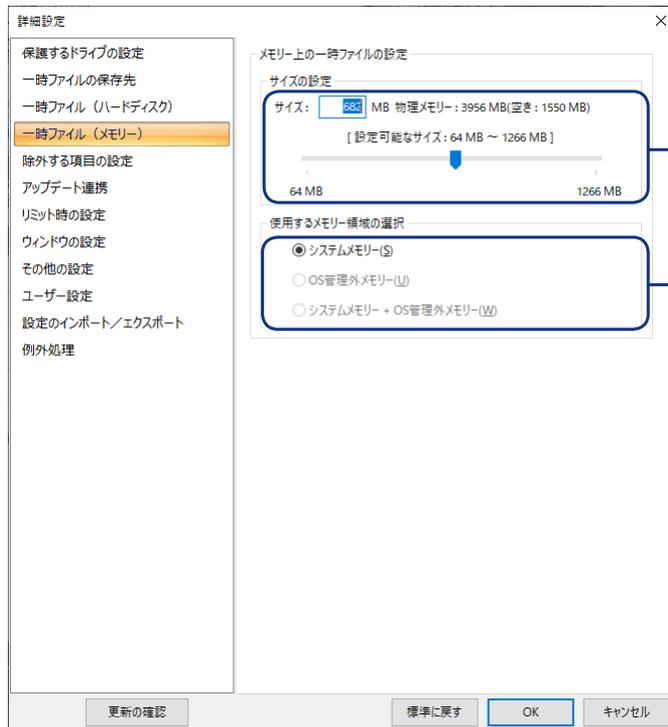
② サイズの設定

ハードディスク上に作成する「一時ファイル」のサイズを指定します。

Point

「一時ファイル」の使用済み容量が100%になると、保護が継続できずにコンピューターが強制的に再起動されてしまいます。頻繁に再起動が行われるような場合は、「一時ファイル」のファイルサイズを大きくしてください。また、強制再起動により必要なデータを紛失しないように、データは保護するドライブ以外に保存することを推奨します。一時ファイルの増加を軽減するための方法がありますので、3-2 ページを参考にしてください。

一時ファイル (メモリー)



① サイズの設定

メモリー上に作成する「一時ファイル」のサイズを指定します。

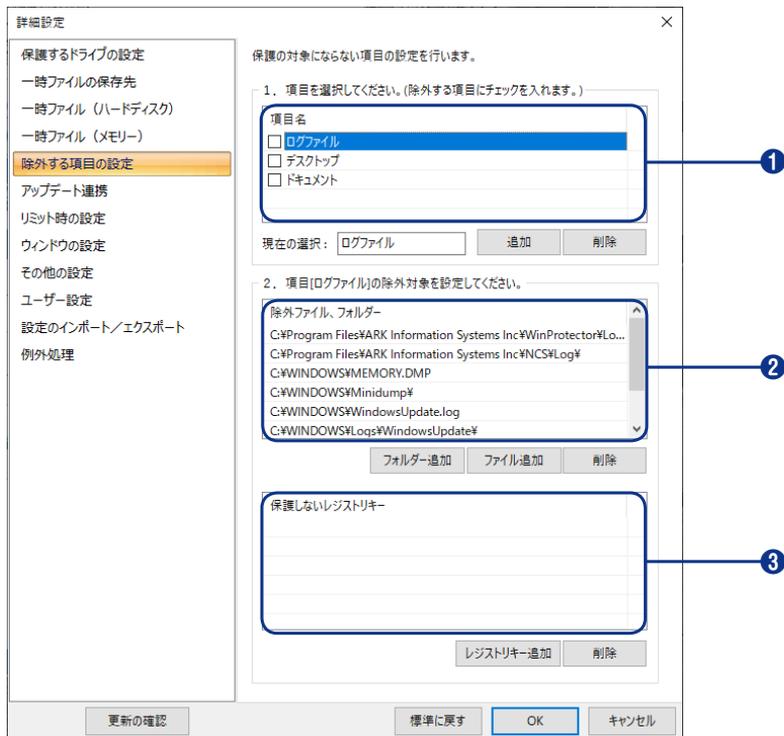
② 使用するメモリー領域の選択

メモリー上に作成する「一時ファイル」の保存領域を選択します。64bit 版の Windows では「OS 管理外メモリー」は選択できません。



「一時ファイル」のサイズを大きくしても、実際に使用できるメモリーが不足している場合、保護を行うことはできません。また、システムメモリーを使用する場合、サイズを大きくすると Windows が使用できるメモリー容量が少なくなります。保護を行うことができないときや動作が遅くなる場合は、サイズを小さくするかハードディスクのみを使用するようにしてください。

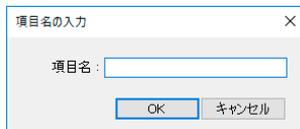
OS 管理外メモリーを使用する場合の注意事項は 1-5 ページを参照してください。



①項目の選択

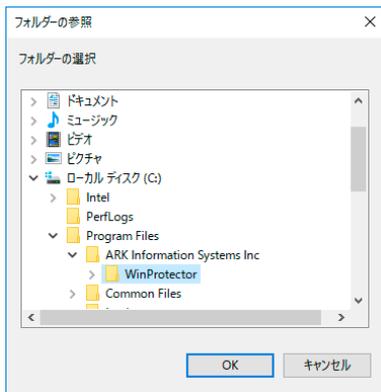
保護中に除外する（保護しない）項目名にチェックを入れます。除外設定を有効にする場合、「その他」のタブの保護設定で、「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」にチェックが入ります。

項目名には、標準で「ログファイル」、「デスクトップ」、「ドキュメント」が登録されていますが、新たに項目名を追加するには、「追加」をクリックして項目名を入力します。

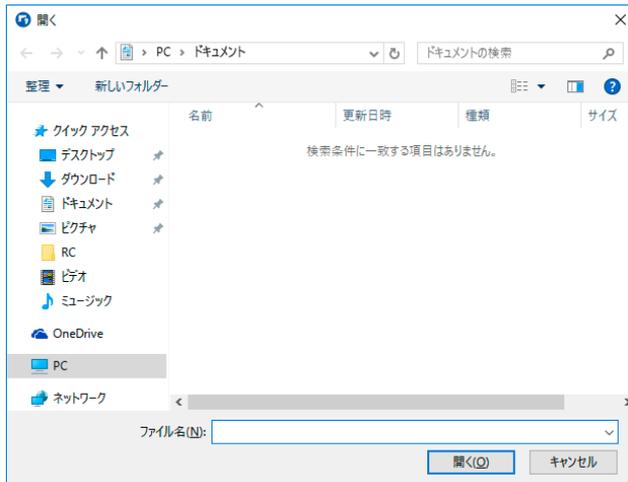


②除外するファイル、フォルダーの選択

①で追加した項目名を選択し、「フォルダー追加」、「ファイル追加」ボタンをクリックして除外する任意のフォルダー、ファイルを指定します。ここにリストされたフォルダー、ファイルは、保護を解除しても、保護中に書き込まれたデータはそのまま削除されずに残ることになります。



フォルダー追加画面

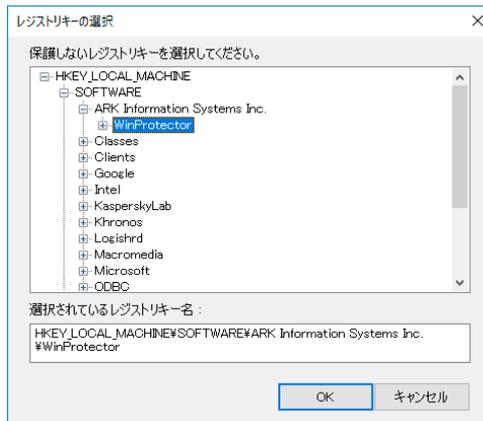


ファイル追加画面

③保護しないレジストリキーの設定

①で作成した項目名を選択し、保護しないレジストリキーを追加します。ここにリストされたレジストリキーは、保護を解除しても変更された各値は保護中の状態のまま残ります。

「レジストリキー追加」をクリックすると右の画面が表示されますので、保護しないレジストリキーを選択します。「選択されているレジストリキー名」欄に直接レジストリキーを入力することも可能です。この場合は、先頭に必ず「HKEY_LOCAL_MACHINE」を付けて入力してください。



レジストリキー選択画面



- 保護しないレジストリキーの設定を行うと、終了ダイアログ (2-6 ページ) において「一時ファイルを適用する」のオプションは選択できなくなります。



① Windows Update の設定

保護中に Windows Update を行うかどうかを設定します。「詳細」をクリックすると、アップデート連携に関する設定を行うことができます(2-15 ページ参照)。

② アンチウイルスソフトウェアの設定

保護中にアンチウイルスソフトウェアの更新処理を行うかどうかを設定します。対象のアンチウイルスソフトがインストールされていない場合は選択できません。

③ コマンドの設定

任意のコマンド(例: [.exe]、[.bat])を実行することができます。「連携前コマンド」は、「Windows Update の更新処理を行う」または「アンチウイルスソフトウェアの更新処理を行う」のチェックが ON になっていなくてもコマンドだけを実行することができますが、「連携後コマンド」はいずれかのチェックを ON にする必要があり、アップデート連携の終了後にコマンドが実行されます。

④アップデート連携を実行するタイミング

アップデート連携を実施するタイミングを指定します。

「スケジュールで実行する」が選択されている場合、下の囲みの中で曜日や間隔など任意のタイミングを設定します。なお、「間隔：」は何週ごとに実行するか1～10の値で指定し、「1」は毎週、「2」は隔週ということになります。

「シャットダウン時に実行する」が選択されている場合、クライアントPCがログオン状態にある時のみ有効となります。

「制限時間：」は、アップデート連携を行う時間を制限するもので、指定した時間が経過するとアップデート連携が途中であっても処理を終了します。シャットダウン時、または任意のタイミングで実行する場合も「制限時間：」で指定した時間が経過すると処理を終了します（詳細は2-27～2-28ページを参照）。

アップデート連携画面（再掲）

⑤アップデート連携後のシャットダウン設定と遅延時間

アップデート連携終了後にコンピューターをシャットダウンすることができます。アップデート連携中はコンピューターが何回か再起動し、アップデートが完了するとシャットダウンが行われます。ただし、「制限時間：」で指定した時間が経過すると、アップデート連携が途中であっても処理を終了し、シャットダウンされます。また、遅延時間を設定すると、アップデート連携時に自動ログオン後すぐに開始せず指定した時間を待ってからアップデート連携が開始されます。遅延時間は、0～10分の範囲で設定できます。

⑥更新処理を実行するアカウントの設定

アップデート連携を行うときは、コンピューターの再起動が行われます。その際、自動的にログオンするためのアカウント（ユーザー名とパスワード）を入力します。「連携前コマンド」のみ実行する場合もアカウントの入力が必要です。アカウントは、管理者権限を持ったアカウントである必要があります。ドメイン環境でのクライアントPCで使用する場合、クライアントPCのローカル管理者のアカウントを入力してください。「ユーザー名」と「パスワード」は、64文字まで設定できます。

入力後は、「アカウント確認」をクリックして入力したユーザー名、パスワードが正しいかどうかを確認してください。

Windows Update アップデート連携に関する詳細設定

Windows Update アップデート連携詳細

WSUSサーバーを使用する

WSUSサーバー
統計サーバー

プロキシサーバーを使用する(マイクロソフトのサーバーに接続する場合のみ)

サーバー名 ポート 8080
ユーザー名
パスワード

適用する更新プログラムの種類

重要 + オプション(A) 重要のみ(D) WSUSの設定に従う

除外する更新プログラムの指定

KB番号で指定: 以下のKB番号の更新プログラムは適用しない

KB番号	追加(K)
KB3012973	削除(L)
KB4023057	

文字列で指定: 名前に以下の文字列を含んだ更新プログラムは適用しない

文字列	追加(N)
Internet Explorer	削除(B)
Service Pack	
Bing デスクトップ	

標準に戻す(S) OK キャンセル

「[Windows Update の設定]」の「設定」ボタンをクリックし、アップデート連携に関する詳細な設定を行います。

WSUS サーバーを使用する場合にチェックを入れ、WSUS サーバーと統計サーバー（通常は WSUS サーバーと同じ）欄にサーバー名を入力します。

プロキシサーバーを使用する場合にチェックを入れ、サーバー名とポート番号を入力します。認証付きプロキシの場合には、ユーザー名、パスワードも入力します。

アップデート連携により適用する更新プログラムの種類を選択します。

アップデート連携によって適用しない更新プログラムを「KB 番号」、「文字列」から指定します。

「KB 番号」の場合、適用しない更新プログラムの KB 番号の数字部分のみを入力します。

「文字列」の場合、適用しない更新プログラムの名前に含まれる文字列を入力します。例えば、「.NET Framework」と入力した場合、この文字列が含まれている更新プログラムはすべて適用されなくなります。

KBの入力

KB: 1234567

OK キャンセル

文字列の入力

文字列: .NET Framework

OK キャンセル

コマンドの設定とオプションスイッチの指定

「アップデート連携前/実行後コマンドの設定」の「設定」ボタンをクリックし、コマンドの設定とオプションスイッチを指定します。

コマンドの設定

コマンドの設定

コマンド:

オプション:

管理者として実行

終了するまで待機する タイムアウト [0 - 600 秒]: 0

クリア OK キャンセル

実行するコマンドとコマンドに渡す引数(パラメーター)を指定します。
例: コマンド: D:\Execute\Setup.exe
オプション: /silent

このオプションが ON の場合は、指定したコマンドを管理者として実行します。Windows 上でエクスプローラーを右クリックして「管理者として実行」を選択した場合と同様の操作となります。

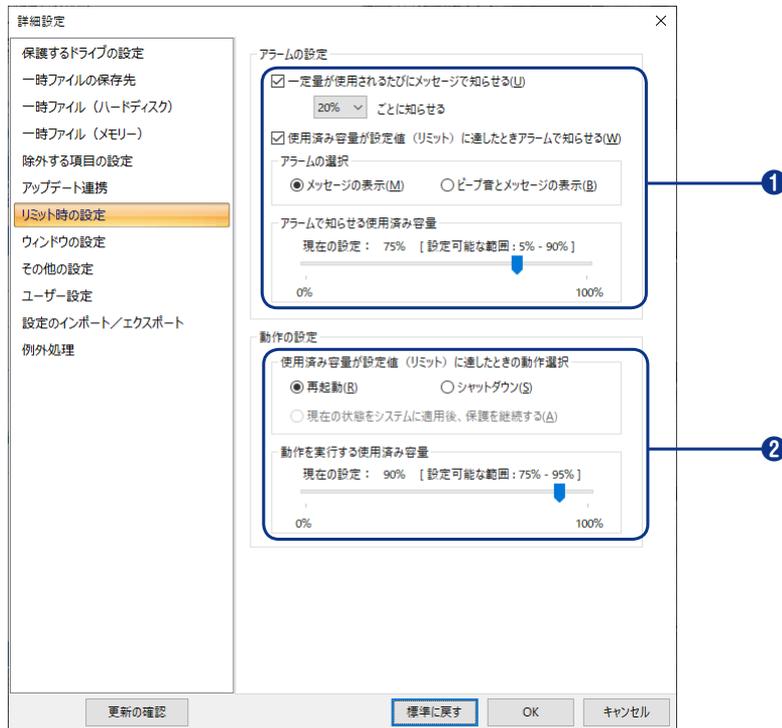
このオプションを ON にすると、「タイムアウト」で指定した時間だけ次のアップデート連携処理に進まずに待機します。なお、コマンド

が実行中であっても「タイムアウト」で指定した時間が経過した場合は、次のアップデート連携処理が開始されます。0 秒を指定した場合、タイムアウトは行われません。オプションが OFF の場合は、コマンドの実行とともに次のアップデート連携処理に進みます。



- アップデート連携時にコマンドを実行する場合、「終了するまで待機する」が ON でタイムアウトに 0 秒（タイムアウトなし）を設定する場合は、そのコマンドが確実に終了することを確認してから設定してください。例えば、コマンドに「notepad.exe」を指定して実行した場合、開いたウィンドウが閉じられるまでは先に進まなくなります。
- なお、コマンドが実行中であってもアップデート連携を行う「制限時間」が指定した時間経過した場合は、アップデート連携が終了しコンピューターが再起動されます。

リミット時の設定



①アラームの設定

- ・一時ファイルが使用されるたびにメッセージで知らせる

「一時ファイル」が設定した容量だけ使用されるたびにメッセージを表示します。例えば、「20%」とした場合、「一時ファイル」の使用済み容量が20%、40%、60%、80%となったときにメッセージが表示されるようになります。

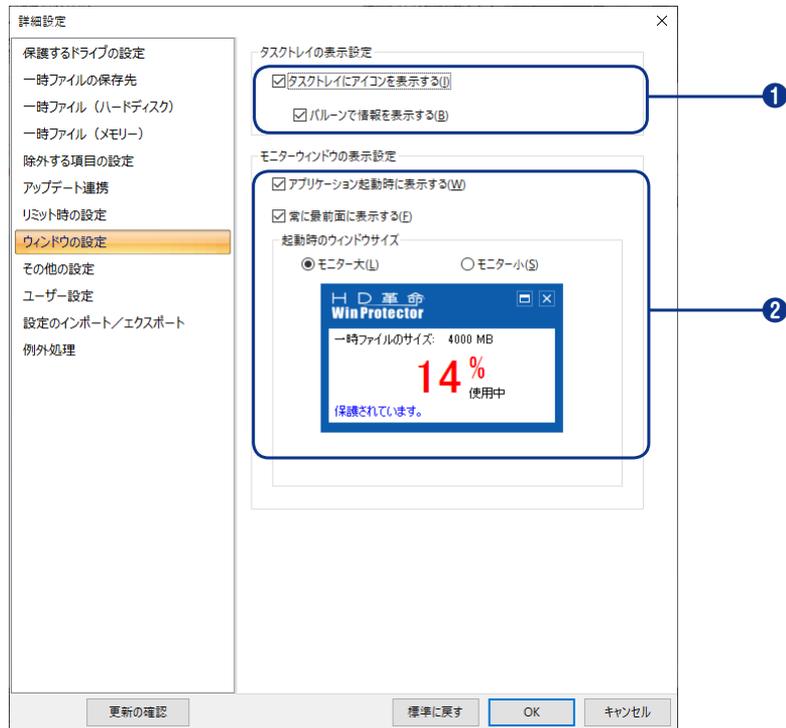
- ・使用済み容量が規定値（リミット）に達したときにアラームで知らせる

「一時ファイル」の使用済み容量が下にあるスライダーで設定した容量になった場合に、「アラームの選択」で選択したアラーム設定で警告をします。

②動作の設定

「アラームの設定」とは別に、「一時ファイル」が下にあるスライダーで設定した容量まで使用されたときに、選択した動作を実行します。「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」が選択されている場合、一時的に保護を解除して「一時ファイル」に保存された内容をドライブに書き込み、その後保護を再開します。なお、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」を使用するには、「一時ファイルの設定」タブで「一時ファイル」の場所に「メモリー」を選択し、かつ、保護対象のドライブが1つの場合のみ設定が有効となります。「Simple Edition」では、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」の機能はありません。

ウィンドウの設定



①タスクトレイの表示設定

HD 革命 /WinProtector が起動しているときに、タスクトレイにアイコンを表示するかどうかを設定します。「バルーンで情報を表示する」にチェックが入っている場合は、保護の開始や解除、「リミット時の設定」タブで設定したアラーム情報などをバルーンメッセージで表示します。

②モニターウィンドウの表示設定

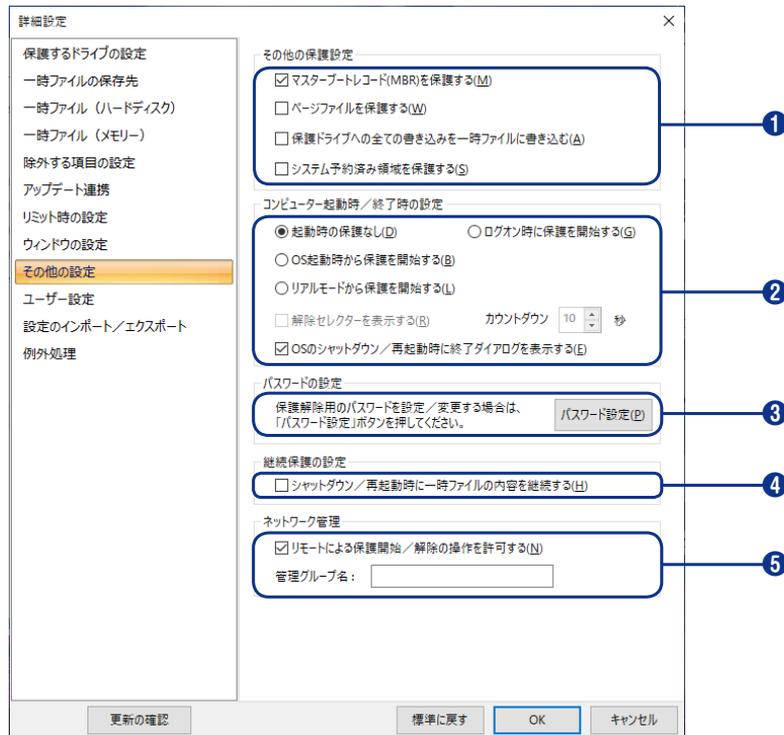
「一時ファイル」の使用済み容量と保護の状態を表示するモニターウィンドウの設定を行います。モニターウィンドウは、大小2つのサイズが用意されており、チェックを外すことでモニターウィンドウを表示しないようにすることもできます。



Windows 8.1/7 の場合



Windows 10 の場合



① その他の保護設定

- ・ **マスターブートレコード (MBR) を保護する**

「保護するドライブの設定」タブで選択したディスクのマスターブートレコードを保護するかどうかを設定します。

- ・ **ページファイルを保護する**

ページファイル (pagefile.sys) を保護するかどうかを設定します。このオプションを選択した場合、ページファイルの使用状況により、オプションを選択しないときよりも「一時ファイル」の使用量が増加することになりますので注意が必要です。

- ・ **保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む**

このオプションが選択された場合、ドライブの空き領域も保護対象となります。保護中に書き込まれた内容は、空き領域も含め全て「一時ファイル」に書き込まれることとなります。このオプションを選択した場合、セキュリティは向上しますが、「一時ファイルの使用容量」はオプションを選択しない場合よりも増加します。なお、「除外する項目の設定」タブで項目名を選択した場合は、このオプションを有効にする必要があります。

- ・ **システム予約済み領域を保護する**

Windows 7 以降の環境で使用されている「システムで予約済み」、「回復パーティション」、「EFI システムパーティション」を保護するかどうかを設定します。環境によってはこのような領域を保護できない場合があります。

②コンピューター起動時／終了時の設定

保護を行うタイミングを選択します。

・起動時の保護なし

コンピューターの起動、または Windows の起動時に保護は行われません。

・OS 起動時からの保護を開始する

Windows の起動時から保護を開始します。

・リアルモードから保護を開始する

コンピューターの起動時から保護を開始します。ただし、GPT ディスク環境では選択できません。

・ログオン時に保護を開始する

ユーザーがログオンした時から保護を開始します。「Simple Edition」では使用できません。

・解除セクターを表示する

Windows の起動時に「解除セクター」(2-6 ページ) を表示するかどうかを設定します。また、解除セクターにおけるカウントダウンの秒数も設定することができます。

・OS のシャットダウン／再起動時に終了ダイアログを表示する

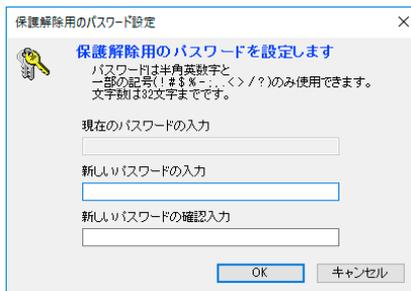
Windows の再起動、またはシャットダウン時に「終了ダイアログ」を表示するかどうかを設定します。「リミット時に設定」タブにおいて、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」が選択されている場合は、ここでの設定に関わらず「終了ダイアログ」が表示されます。



解除セクターを表示しないようにすると、Windows の起動中に保護をキャンセルすることができません。起動中にアプリケーションの競合が生じた場合などは、キャンセルができないと Windows が起動できなくなります。あらかじめ正常に起動できることを確認してから、チェックをはずすようにしてください。

③パスワードの設定

保護の解除と「詳細設定」画面を開くためのパスワードを設定します。パスワードは、半角英数字と一部の記号が使用可能で 32 文字まで設定できます。ただし、「リアルモードから保護を開始する」を選択して使用している場合は、半角英数字で 8 文字に制限されます。パスワードを忘れてしまうと保護を解除できなくなりますので注意してください。



パスワード設定画面

④継続保護の設定

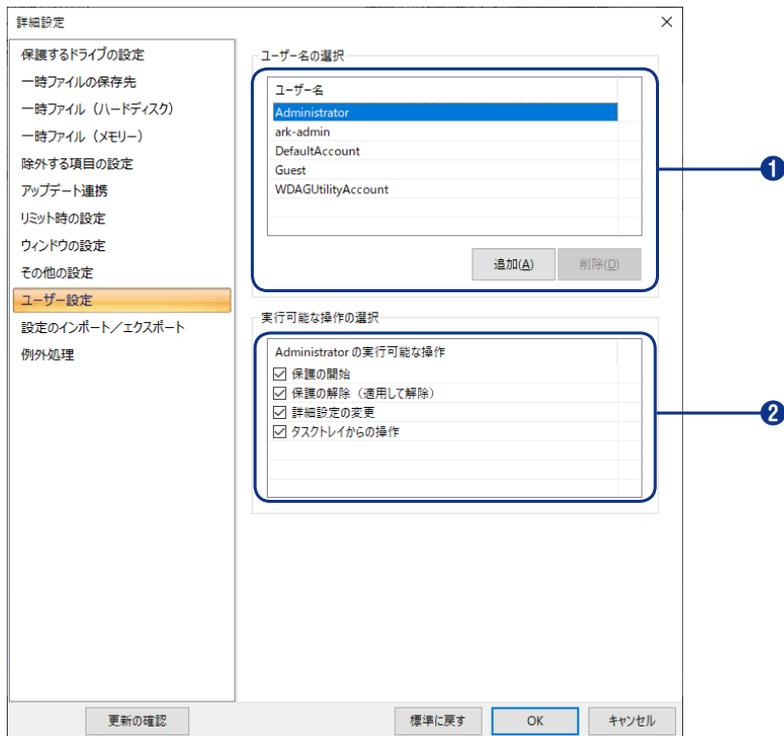
・シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する

コンピューターをシャットダウン／再起動しても、一時ファイルを破棄せず、保護を解除するまで保護中に書き込まれた内容が継続します。ただし、GPT ディスク環境では選択できません。このオプションを使用する場合は、「除外する項目の設定」(2-11 ページ) は使用できません。また、「Simple Edition」では使用できません。

⑤ネットワーク管理

・リモートによる保護開始／解除の操作を許可する

別のコンピューターにインストールされている「ネットワークマネージャー」から、リモートによる保護の開始、解除の操作を許可するかどうかを選択します。「管理グループ名」には、「ネットワークマネージャー」(3-6 ページ) で区別するグループ名を入力します。16 文字まで入力が可能です。この機能は、「Standard」エディションでのみ表示されます。

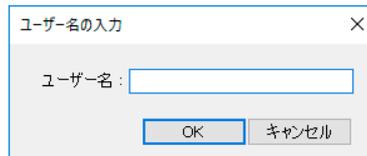


①ユーザー名の選択

操作を行うユーザーを選択します。初期状態で、現在その OS に存在しているユーザー名の一覧が登録されています。「追加」をクリックすると、新しくユーザー名を登録することができます。ドメインのユーザーを登録する場合は、「ドメイン名\ユーザー名」を入力してください。

Point

ユーザー名には、*によるワイルドカード指定ができます。「*」は 0 文字以上の任意の文字列を表します。例えば「a * r」と入力した場合、この画面のユーザー名では、「Administrator」が該当することになります。「ark」は後ろに「k」があるため「a * r」の条件には該当しませんので、指定する文字列に注意してください。



②実行可能な操作の選択

①の「ユーザー名」で選択されたユーザーに対して、実行を許可する操作にチェックを入れます。管理者としてログオンしているユーザーの動作を制限してしまうと、何も操作ができなくなってしまうので、ユーザー名を確認してからチェックをはずすようにしてください。

・保護の開始

保護の開始を許可します。保護の開始が不許可になっているときでも、「その他の設定」タブで「OS 起動時からの保護を開始する」または「リアルモードから保護を開始する」が有効になっている場合は、OS 起動時に保護が開始されます。

・保護の解除（適用して解除）

「一時ファイル」を適用して保護を解除することを許可します。

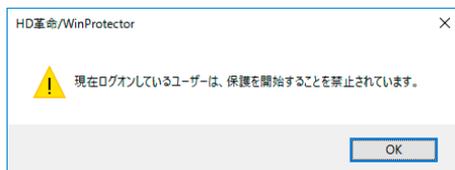
・詳細設定の変更

「詳細設定」画面を開いて設定を変更することを許可します。パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力が必要です。

・タスクトレイからの操作

タスクトレイのアイコンを右クリックしたときに表示されるメニューからの動作を許可します。

この画面で操作不可に設定されたユーザーがメイン画面などから操作を行おうとした場合、警告メッセージが表示されます。



Point

「その他の設定」の「ログオン時に保護を開始する」オプションの機能と「保護の開始」の許可、不許可の設定を組み合わせることで、特定のユーザーがログオンした場合だけ、保護を開始する（または、保護を開始しない）という動作を設定することができます。

例えば、Administrator がログオンした場合は保護を開始せず、それ以外のユーザーのログオン時に保護を開始するような場合、

- ①「ログオン時に保護を開始する」オプションを選択
- ②「ユーザー設定」で、Administrator の「保護の開始」を無効（チェックをはずす）

に設定することで実現できます。

ただし、Administrator 以外のユーザーでログオンして保護が開始された後、そのユーザーがログオフし、次に Administrator がログオンした場合は、保護がかかったままになります。

設定のインポート/エクスポート

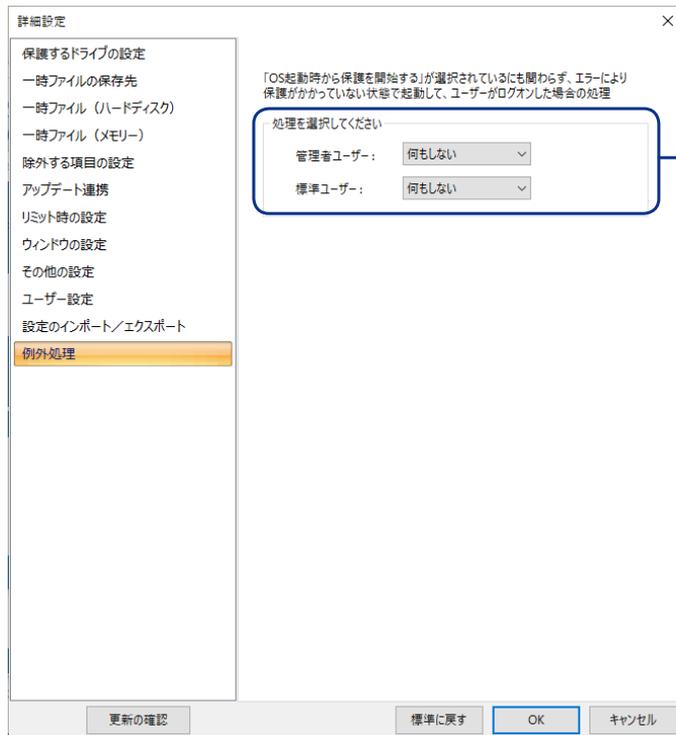


①設定ファイル

「詳細設定」の各画面で設定されている内容を、設定ファイル(.iniファイル)として保存(エクスポート)することができます。また、その設定ファイルを読み込むこと(インポート)で設定を反映できます。複数台のコンピューターにHD革命/WinProtectorをインストールする場合など、あらかじめマスターとなるコンピューターにおいてHD革命/WinProtectorの詳細設定を行ってから設定ファイルを出力し、これを他のコンピューターでのインストール時に適用するということが可能となります。複数台のコンピューターを同じ設定で使用する場合に役立つ機能です。

Point

保存場所は、標準でHD革命/WinProtectorのインストール先が指定されています。インストールフォルダー以外の場所への出力、ファイル名の変更を行うことも可能です。



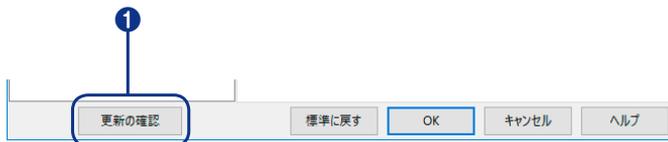
①例外処理の設定

「その他の設定」(2-19 ページ) で「OS 起動時から保護を開始する」に設定されているが、何かしらのエラーによって保護が開始されていない状態となった場合、Windows が起動してユーザーがログインした場合に、どのような処理を行うかを設定することができます。これにより、保護が行われなままコンピューターが使用され続けることを抑制することができます。「管理者ユーザー」、「標準ユーザー」のそれぞれで、「何もしない」、「メッセージ表示のみ」、「再起動」、「ログオフ」の中から動作を選択します。

更新の確認

①更新の確認（ボタン）

「詳細設定」画面の左下に「更新の確認」ボタンがあります。このボタンをクリックすると、HD 革命 / WinProtector の更新を確認するツールが起動します。アップデータのダウンロードには、製品のユーザー登録が必要となります。なお、「更新の確認」ボタンは販売先の OEM 製品によっては表示されていない製品もあります。



アーク情報システムの Web サイトにて既にユーザー登録を行われている場合は、登録したユーザー ID（メールアドレス）とパスワードを入力し、「ユーザー登録」をクリックします。

ユーザー登録を行われていない場合は、この画面より仮登録を行うことができます。仮登録を行うことで、アップデートをダウンロードとインストールを行うことができます。

ユーザー登録を行うユーザー ID（メールアドレス）、パスワードを入力し、「ユーザー登録」をクリックします。

ユーザー登録の確認、または仮登録が完了すると、次の画面が表示されますので、「更新」をクリックします。アップデートが存在する場合は、ダウンロードしてアップデートを実行します。

更新確認ツール

製品をご利用いただきありがとうございます。

製品名:

ユーザー登録情報

ユーザーID(メールアドレス)

パスワード

パスワード(確認用)

シリアル番号

ユーザーIDにはメールアドレス(6~60文字)を入力してください。
パスワードは半角英数字6~18文字です。

弊社WEBにて「ユーザー登録」が済みの場合にはユーザー登録したユーザーIDを入力してください。確認のメールを「ユーザーID」欄宛にお送りしますので、スベル間違いなど無いはお願いたします。



「更新確認ツール」にて製品の仮登録をする場合、登録される情報は、ユーザー ID（メールアドレス）、パスワード、シリアルナンバーのみとなります。サポートへのお問い合わせや優待販売で製品をご購入いただく場合は、正式なユーザー登録が必要となりますので、アーク情報システムの Web サイトでその他の項目の登録をお願いいたします。

更新確認ツール

更新データ問合せ完了

更新データがありません。更新を行う場合は「更新」ボタンを押してください。

Point

「アップデートが存在しない場合は、「更新データがありませんでした。」とメッセージが表示され、「OK」をクリックすると更新の確認ツールが終了します。

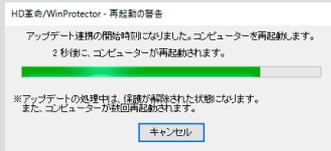
更新確認プログラム

更新データがありませんでした。終了します。

Windows Update 実行時の動作について (Simple Edition) は対応していません

HD 革命 / WinProtector で保護を行っている間に、アップデート連携で「Windows Update」を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターが再起動して Windows Update が行われます。アップデート連携中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

- 1 アップデート連携の開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 2 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

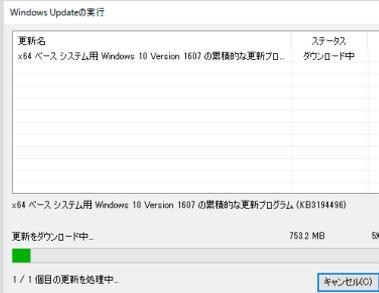
- 3 「詳細設定」の「アップデート連携」タブにおいて設定されたユーザーで自動ログオンし、アップデート連携の設定が行われます。このとき、右のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 4 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

- 5 自動ログオン後に Windows Update が開始されます。この時、次の画面が表示され、Windows Update (ファイルのダウンロードとインストール) が行われます。Windows Update が行われている間は Windows の操作はできません。キャンセルをクリックすると Windows Update を途中で止めることもできます。



Point

適用する更新プログラムが存在しない場合は、次のメッセージが表示され、コンピューターの再起動が行われます。このとき、アップデート連携に必要な設定を元に戻しますので、次の再起動時から保護が行われます。



- 6 一覧に表示された更新プログラムのインストールが完了するとコンピューターが再起動します。このとき、適用した更新プログラムがコンピューターの再起動を必要とする場合は、次回コンピューターの起動時に次のメッセージが表示されます。

Config windows update...
After the update is complete, the system will automatically restart ...

また、再起動後に更新プログラムがインストールされるような場合は、コンピューター起動時に次のメッセージが表示されます。この場合、複数回コンピューターが再起動されることがあります。

Prepare for Update Cooperation...

- 7 Windows Update の処理が全て完了すると、アップデート連携の設定を元に戻し、コンピューターの起動時に保護が開始されます。以降は、通常に操作が可能となります。

Point

「アップデート連携終了後、シャットダウン」のオプションが選択されている場合は、自動ログオン時に次のメッセージが表示され、コンピューターをシャットダウンします。「キャンセル」をクリックするとシャットダウンを中止することができます。



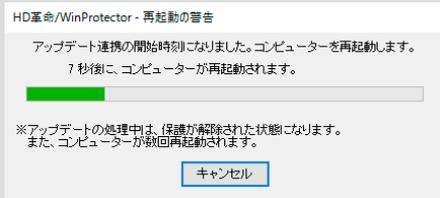
「Windows Update の設定」画面 (2-13 ページ) で設定した制限時間が経過すると、更新プログラムのインストールが全て終わっていない場合でも、途中でキャンセルされコンピューターを再起動します。このときは下にあるメッセージが表示されますが、メッセージは自動的に閉じます。Windows Update が途中でキャンセルされた場合でも、制限時間内にインストールされた更新プログラムは有効となりますので、同じ更新プログラムが重複してインストールされることはありません。次の開始時刻がきて Windows Update が開始されると、まだインストールされていない残りの更新プログラムがダウンロード、インストールされます。



アンチウイルスソフトウェアの更新動作について (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に、アップデート連携で「アンチウイルスソフトウェアの更新」を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターを再起動してプログラムの更新処理を行います。アップデート連携中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

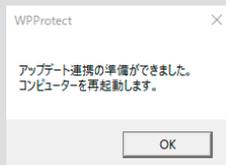
- 1 アンチウイルスソフトウェアの更新開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



- 2 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

- 3 「詳細設定」の「アップデート連携」タブにおいて設定されたユーザーで自動ログオンし、アップデート連携の設定が行われます。このとき、次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。

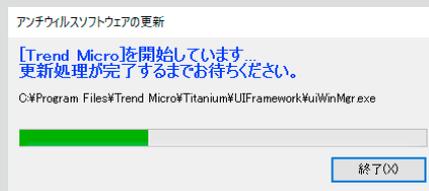


- 4 再起動後に次のメッセージが表示されます。

Prepare for Update Cooperation...

- 5 自動ログオン後にアンチウイルスソフトウェアの更新処理が開始されます。更新中は次の画面が表示されますが、処理に時間がかかりますのでそのまましばらくお待ちください。

なお、アンチウイルスソフトウェアの種類によっては、操作画面や設定画面、コマンドプロンプトが表示されることがありますが、操作は行わないようにしてください。「終了」をクリックすることで更新処理を止めることもできます。



- 6 更新処理が完了すると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。このとき、アップデート連携の設定は元に戻されますので、次のコンピューターの起動時から保護が開始します。以降は、通常に操作が可能となります。



Point

「詳細設定」の「アップデート連携」タブで、Windows Update とアンチウイルスソフトウェアの両方の更新処理を設定した場合は、最初にアンチウイルスソフトウェアの更新が行われ、アンチウイルスソフトウェアの更新完了後に Windows Update が行われます。

アップデート連携について

「アップデート連携」は、HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に、Windows Update、アンチウイルスソフトウェアの自動更新を行う機能です。設定した日時になると、保護を一時解除し、ダウンロード、適用した上で保護を再開します。「アップデート連携」には、いくつかの制限および注意事項があります。以下に「アップデート連携」を実行するタイミングの例をあげて、動作を説明します。

〈タイミングの設定例〉

間 隔：金曜日
開始時刻：23:00
制限時間：5 時間



Point

この設定では、毎週金曜日の 23 時になると「アップデート連携」機能により自動更新が開始します。制限時間（開始から終了までの時間）はユーザーがリストの中から指定（最大 5 時間）できますが、実行可能なアップデートがすべて適用された場合は、制限時間の終了を待たずにコンピューターが再起動し保護を継続します。

アップデートの実行内容

●アップデートが指定した時間内に終了しなかった場合

更新が制限時間（例では 5 時間）内に完了しなかった場合、残りの更新は、次の「アップデート連携」が実行されるタイミングで適用されます。

例えば更新プログラムが 10 個あり、制限時間内に 6 個まで完了した場合、残りの 4 個は次の「アップデート連携」のタイミングで適用されます。なお、終了時刻になっても更新が実行中だった場合、その更新は途中でキャンセルされ次のアップデート連携のタイミングで再度適用されます。



更新が 10 個存在し、そのうち 6 個が制限時間内で完了すると…

前回の残り 4 個を実行します。この時点で最新の更新プログラムが存在する場合、合わせてそれも実行します。

●更新プログラムの順序に依存関係がある場合

更新プログラム④に依存する更新プログラム③が存在する（更新プログラム④が先に適用されていないと、更新プログラム③が適用できない）場合、はじめに更新プログラム④を適用した後、次のアップデート連携のタイミングに更新プログラム③が適用されます。



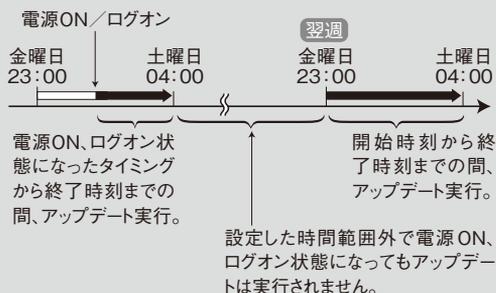
更新プログラム④を適用。この時点では更新プログラム③は適用されません。

更新プログラム③が適用。この時点で最新の更新プログラムが存在する場合、合わせてそれも適用されます。

- 「実行するタイミング」(2-13 ページ) で「前回開始されなかった場合は、起動時/ログオン時に開始する」が OFF の場合

アップデートの実行には、「実行するタイミング」で設定した制限時間内で、コンピューターの電源が ON、かつ、ログオン状態である必要があります。

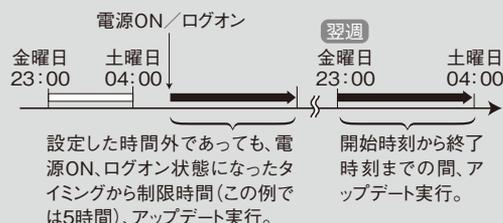
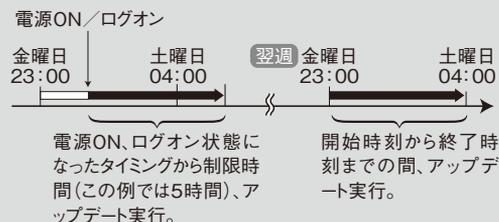
制限時間内にログオンされていない場合は、アップデートは実行されません。アップデートが実行されるのは、終了時刻までの間のみとなります。



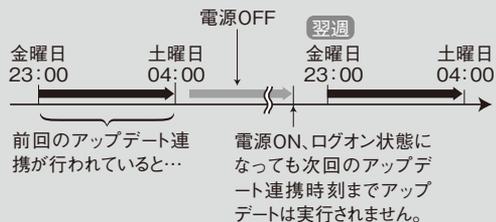
- 「実行するタイミング」(2-13 ページ) で「前回開始されなかった場合は、起動時/ログオン時に開始する」が ON の場合

アップデート連携の開始時刻から制限時間内に、コンピューターが起動していなかったなどの理由でアップデート連携が行われていないとき、「前回開始されなかった場合は、起動時/ログオン時に開始する」オプション(2-13 ページ) が ON の場合は、コンピューターの電源が ON になったときやログオン時にアップデート連携を開始します。

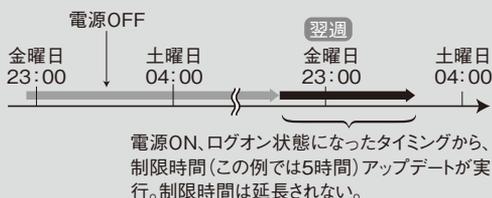
※ログオン時に開始される場合は、通常のアップデート連携時と同様に「アップデート連携の開始時刻になりました。」のダイアログが表示され、コンピューターが再起動します。



前回のアップデート連携が行われている場合は、次のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。



アップデート連携が設定されている時間範囲外にアップデート連携が開始し、アップデート連携の開始時刻をまたぐ場合、アップデート開始から制限時間(この例では5時間)経過するまでアップデートが実行されます。この場合、実行予定だったアップデート連携はキャンセルされ、次のアップデート連携開始時刻までアップデートは実行されません。

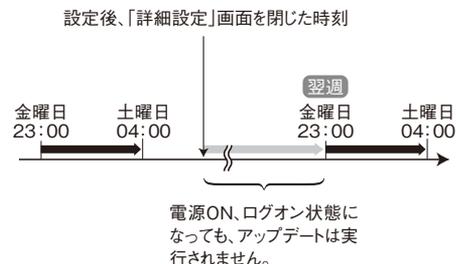


Point

オプション設定直後のアップデート連携について

「前回開始されなかった場合は、起動時/ログオン時に開始する」オプションをONにして「OK」を押し、「詳細設定」画面を閉じたのが 4:00 以降とすると、次のアップデート連携実行タイミング(次の 23:00)までの間は、時間範囲外でもアップデート連携は開始されません。

次の実行タイミングの終了時刻(次の 4:00)以降は、時間外でもアップデート連携を開始する対象となります。



第3章

便利ツール

ここでは、HD 革命 /WinProtector をより便利にご利用いただくための各種ツールについて説明しています。

ComfortDisk

Windowsには、パフォーマンスを向上させるために環境を最適化する機能があります。しかし、この機能が動作するとハードディスクへの書き込みが発生し、HD 革命 / WinProtector の一時ファイルを増加させる原因となります。

「ComfortDisk」は、Windows に付属している最適化機能のうち、ハードディスクや SSD への書き込みを行う機能の設定を変更するツールです。

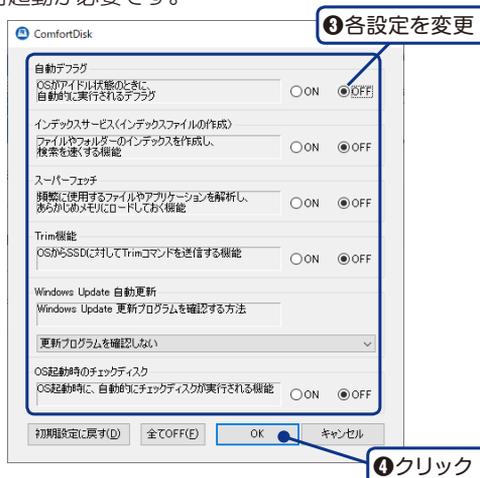
1 「ComfortDisk」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ComfortDisk」を選択します。



2 設定の変更

各機能を有効にするか無効にするかを、ON / OFF により設定します。変更後はコンピューターの再起動が必要です。



- 各機能を OFF にするとハードディスク、SSD への書き込みは減少しますが、Windows のパフォーマンスは低下します。

自動デフラグ：Windows は、何も操作がされていない状態（アイドル状態）のときに自動的にデフラグを実行しています。この自動デフラグの設定を変更します。

インデックスサービス：Windows は、ファイルやフォルダーのインデックスを作成し、このインデックスを参照することで高速な検索を可能としています。このインデックスを作成する機能の設定を変更します。

スーパーフェッチ：頻繁に使用するファイルやアプリケーションを解析し、あらかじめメモリにロードしてパフォーマンスを向上させる機能です。Windows 7 以降ではスーパーフェッチ (SuperFetch) といいます。

Trim 機能 (Windows 7 以降)：SSD の性能低下を抑制するために OS から SSD に対して行われる機能です。この Trim コマンドの設定を変更します。

Windows Update 自動更新：Windows の自動更新機能について下のメニューから選択することで設定を変更できます。

OS 起動時のチェックディスク：エラーが生じた場合など、Windows の起動時にチェックディスクが行われることがありますが、この機能を有効にするかどうかを設定します。

ドライブ情報の取得

コンピューターに接続されているハードディスクに関する情報を取得し、表示することができます。

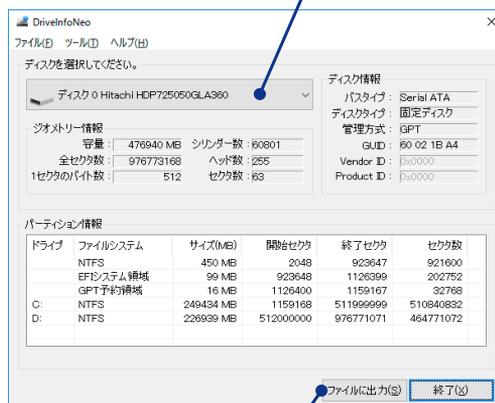
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

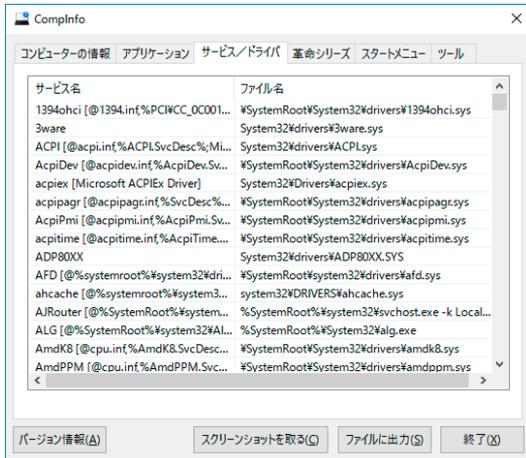
③情報を表示させたいディスクを選択



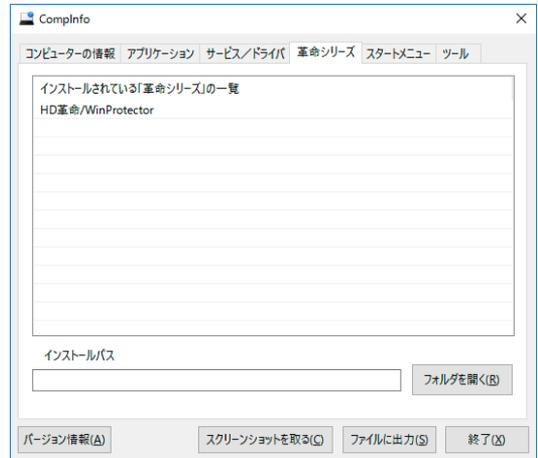
ドライブ情報を HTML ファイルに書き出すときにクリック



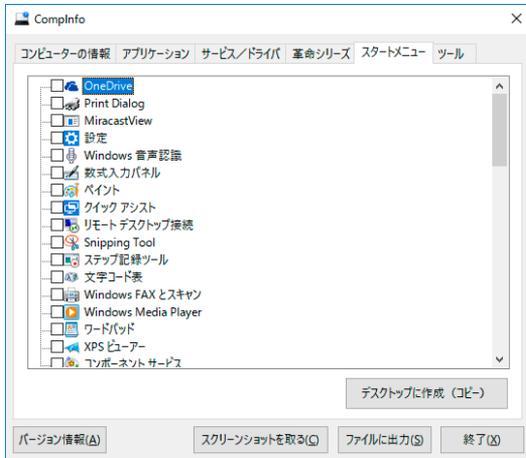
- この画面の「ツール」メニューには
- Windows やパーティション情報を変更
- する機能がありますが、誤った操作を行
- うとWindows を起動できなくなります。
- Windows やパーティションの状態に問題が
- ないときには使用しないでください。



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「スタートメニュー」タブ



「ツール」タブ

Point

「スタートメニュー」タブでチェックしたメニューを Windows のデスクトップに作成することができます。「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかの Windows の機能呼び出すことができます。

ネットワークマネージャー (「Standard」のみ)

ネットワークマネージャーは、ネットワークに接続された HD 革命 /WinProtector がインストールされているコンピューターを検索し、保護の開始・解除などの操作をリモートコントロールするツールです。

1 ネットワークマネージャーのインストール

製品CDをドライブに挿入し、「NetworkManager」フォルダーの中にある「WPNetworkManagerSetUp.exe」を実行します。

2 ネットワークマネージャーのメイン画面

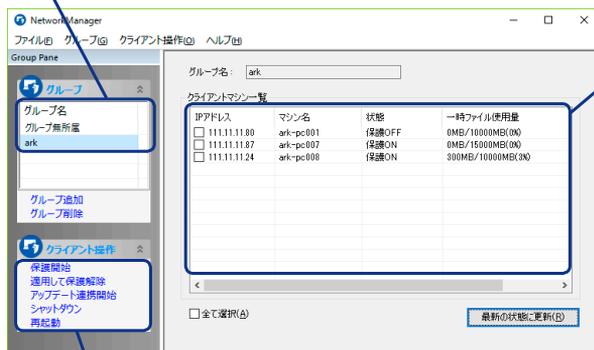
Windowsのスタートメニューで「HD 革命 WinProtector」→「WinProtector ネットワークマネージャー」を選択するとメイン画面が表示されます。この画面でクライアントコンピューターの操作を行います。



- ネットワークマネージャーから「アップデート連携開始」を行うために、あらかじめクライアント側で「アップデート連携」の設定が行われている必要があります。
- 「アップデート連携」の設定が行われていないクライアントに対しては、「アップデート連携」をクリックしても何も起こりません。

ここで選択した管理グループ名が設定されているクライアントのみリストに表示されます。

初期設定では管理グループ名は「グループ無所属」が1つだけなので、他のグループ名のクライアントを表示する場合は「グループ追加」で管理グループ名を登録します。



クライアントとして利用可能なコンピューターの状態が表示されます。

一覧で選択したクライアントコンピューターの保護の開始、解除などを行います。

Point

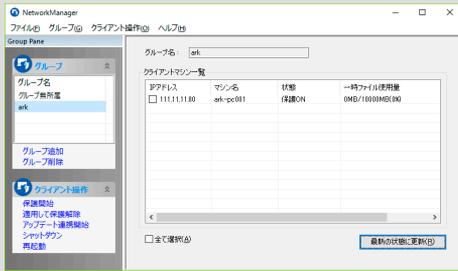
クライアントとなるコンピューターの管理グループ名は、HD 革命 /WinProtectorの「その他の設定」画面(2-18ページ)で設定します。

アップデート連携時の画面表示

ネットワークマネージャーから、選択したクライアントに対して「アップデート連携」を行う場合は、クライアントのコンピューターの状況により次のように画面が変遷します。

1 通常時

HD 革命 /WinProtector で保護が開始されていない場合は、「状態」に「保護 OFF」と表示されています。保護中は「保護 ON」と表示されます。



2 「アップデート連携開始」をクリックしたとき

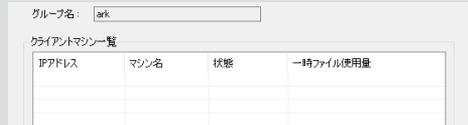
「状態」が「再起動中」になり、一時ファイル使用量の欄に「アップデート開始」と表示されます。このとき、クライアントコンピューターは自動的に再起動が行われます。



- クライアントコンピューターが操作中であつても、ネットワークマネージャーで「アップデート連携開始」がクリックされるとクライアントコンピューターは自動的に（強制的）に再起動が行われてしまいます。
- クライアントコンピューターの使用状況に注意してください。

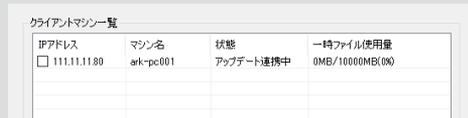
3 クライアントコンピューターが再起動中

アップデート連携のために、クライアントコンピューターが再起動中（Reboot for Windows Update / Anti-Virus Software update… の表示が出ているとき）は、ネットワークマネージャーには何も表示されません。



4 アップデート連携が実行中のとき

クライアントコンピューターが再起動後にオートログオンし、アップデート連携が実行されている間は、「状態」が「アップデート連携中」と表示されます。



5 アップデート連携が完了しクライアントコンピューターが再起動中

アップデート連携が完了して、クライアントコンピューターが再起動中（Reboot for Windows Update Finish / Anti-Virus Software update Finish… の表示が出ているとき）、ネットワークマネージャーには何も表示されません。



アップデート連携がすべて完了すると、クライアントコンピューターの表示は、「1 通常時」の表示に戻ります。

- ・本マニュアルは PDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・ Microsoft[®]、Windows[®]10、Windows[®]8、Windows[®]8.1、Windows[®]7、Windows[®]Vista、Windows[®]XP、Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・ その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

HD 革命 /WinProtector Ver.8 操作マニュアル

2018年11月1日 第1版発行

発行 株式会社アーク情報システム

〒102-0076 東京都千代田区五番町4-2 東プレビル

© 2018 Ark Information Systems

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。